

正解 ① 奈良時代



「奈良の大仏さま」として有名な東大寺盧舎那仏像 (るしゃなぶつぞう) は、青銅製で、大量の銅やスズといった重金属が使われています。また、奈良時代当時の大仏さまの表面には、金めっき処理が施されていて、この金めっき処理のために、大量の水銀が使用されました (使用された水銀の量は、300 kg~2.5 トンと推定されています)。

水銀や銅、スズといった重金属は、人体に取り込まれると中毒症状を引き起こします。これらの重金属汚染によって、大仏建造に関わった作業員や、その周辺の住民に重篤な健康影響があったとされています。ただし、最新の研究結果では、水銀や銅による汚染はほとんど無く、むしろ鉛の汚染の影響の方が大きかったという報告もされています。

